

# 遺品整理屋は見た!

## 思わず目を背けたくなる、悲惨な現場の片付けを代行

一人暮らしの人が亡くなった際、遺族に代わり、故人の日用品や部屋の片付けを代行する業者がある。『遺品整理屋は見た!』という著書が話題になっている、愛知県に本社を置く「キーパーズ」の社長・吉田太一氏は言う。

「少子高齢化の時代、独居老人の増加に伴い、遺品整理をすることのできないご遺族が急増しているんです。ご遺族が遠方に住んでいるケースの依頼が特に多いんです」

創業4年、これまでに受けた相談は4000件以上に上る。

「6歳で亡くなられた女性の部屋を片付けたときのことです。息子さんから依頼で呼ばれ、部屋にすんなり案内されたので、私も油断していたのですが……。中に入って絶句しました。部屋の中が、まるでヤクザの抗争現場のようだったんです。一面、血で真っ赤に染まっていたんですよ」

故人は離婚後、息子さんの結婚を機に別居。その部屋で一人暮らしを始めた。寂しさからか、亡くなる直前には錯乱状態になることが多かったという。「息子さんの話では、手首を切った後に自ら警察に通報したんだそうです。私が電話を外そうとしたら、受話器に

は真っ赤な手形が残っていました」と、惨劇の現場を振り返る。また、時期によっては、別の形で作業が困難になるケースもあるのだとか。

「孤独死や自殺による変死が増えていきます。発見が遅れたご遺体は、腐乱の状態が物凄いです。中には遺体が溶けているケースもあります。夏場は3日もすれば死臭が伴いますので、ご遺族でも部屋には入ることができないほど酷い状況になります」

壮絶な現場に遭遇することもあるこの仕事、気になるのはやっぱり値段だ。自然死の平均価格は、片付け作業費の見積もりで、2間に住む独居老人の場合20万〜25万円ほど。変死だと50万円程度になることもあるとか。見積金額に納得してもらえたら、部屋に残っているものすべての所有権を、遺族に放棄してもらい、1t当たり1000円程度で遺品を買い取るのだそうだ。少子化が進んで、最後の独居が増えているが、自分の人生の最後は家族に看取られたものだ。

遺品整理屋は見た!



吉田氏の著書『遺品整理屋は見た!』が発売中(小社刊)。遺品整理の現場で起きた、身の毛もよだつような壮絶な人間ドラマが満載だ

天国へのお引越しのお手伝い

0120-754-070

無料相談

0120-754-070

### キーパーズ

“天国へのお引越しのお手伝い”をキャッチコピーに究極のサービス業を東京・名古屋・大阪・福岡で展開中。料金の目安は1K、作業員2人で6万円から。☎0120-754070